

東北文教大学短期大学部における教育目的・目標

《東北文教大学短期大学部の教育目的》

教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を育成するとともに、「敬・愛・信」の建学の精神にのっとり人間性豊かな、真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成を目的とする。

*なお、この教育目的に基づき学科ごとに教育目的・目標を定める。

《子ども学科の教育目的・目標》

■教育目的

子ども学科は、「敬・愛・信」の建学の精神に則り、未来をつくる子どものために、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた、保育・教育における総合的実践力を有する人材の育成を目的とする。

■教育目標

- (1) 多角的視野と総合的視野に裏付けされた思考と判断を持って保育が実践できる保育者を養成する。
- (2) 観察－分析－計画－実行のサイクルにより、向上的に保育が実践できる保育者を養成する。
- (3) 子どもの育ちを支えることができる、専門的知識と技術をもった保育者を養成する。
- (4) 日常的に保育者としての自覚を持ち、倫理観・道徳心のもと責任ある言動をとることができる保育者を養成する。
- (5) 子どもと共感できる、豊かな感性と情操を身につけた保育者を養成する。
- (6) 保育者としてのコミュニケーション能力を有し、職場において協働できる保育者を養成する。
- (7) 社会の一員としての教養を身につけ、生涯に渡り主体的に学ぶことのできる保育者を養成する。

《現代福祉学科の教育目的・目標》

■教育目的

現代福祉学科は、「敬・愛・信」の建学の精神に則り、人権を尊重する基本姿勢と深い人間愛、豊かな人間性を兼ね備えた、介護福祉における基礎的な実践力を有する人材の育成を目的とする。

■教育目標

- (1) 幅広い視野と教養を持ち、社会保障や社会福祉に関する制度・施策を理解し、多角的な視点からの確かな判断ができる人材を養成する。
- (2) 基礎的な介護の知識と技術を有し、実践を的確に記録し、常に根拠のある介護が提供できる人材を養成する。
- (3) 人間の尊厳や人権を基盤にして、福祉を必要とする人々を理解し、その苦悩に共感し、相手の立場にたって考えられる人材を養成する。
- (4) 人間の持つ生活・福祉問題を総合的に把握し、潜在能力を引き出して活用する自立支援を基本として、サービスを計画的に提供できる人材を養成する。
- (5) 他の職種との役割とチームアプローチの必要性を理解し、トータルケアをチームの一員として、積極的に推進できる人材を養成する。
- (6) 情報機器や福祉機器を活用して、事態を的確に対処できる人材を養成する。
- (7) 他の職種やチーム、利用者との円滑なコミュニケーションを取ることのできる人材を養成する。

学科の方針（ポリシー）

学科には、それぞれの学科の教育目的・目標を踏まえた三つの方針（ポリシー）があります。

●学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

東北文教大学の卒業の認定や学位授与の方針をまとめたものです。学生が卒業するに際して身に付けているべき力が示されています。

●教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

東北文教大学の教育内容とその配列の方針をまとめたものです。学生が入学から卒業までに何をどのように学ぶのか、その計画が示されています。

●入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

東北文教大学が「入学してほしい」と考える学生の姿をまとめたものです。求める学生像とこの学生像をふまえた入学者選抜の方法が示されています。ここでは、「入学者に求める学生像」のみを示しています。

《子ども学科》

■ディプロマ・ポリシー

子ども学科では、東北文教大学短期大学部学位規程に基づき、以下の知識・技能・態度を身につけたものに短期大学士（子ども学）の学位を与える。

- (1) 保育・教育の本質を説明することができる。
- (2) 保育の対象と内容を理解し、総合的に保育を計画し実践することができる。
- (3) 保育をするための方法や技術を身につけ、実践することができる。
- (4) 他者を尊重する態度と倫理観を持ち、協働することができる。
- (5) 社会人としての教養を身につけ、自ら問題を発見し解決に向けて探求することができる。

規定した知識・技能・態度の育成に資するため、基準となる単位数に、以下に示す単位数を含むものとする。

- (1)については、専門科目の「保育の本質・目的」の区分で定める単位数
- (2)については、専門科目の「保育の対象の理解」「保育の内容と方法」の区分で定める単位数
- (3)については、専門科目の「保育の内容と方法」と「保育展開のための知識・技術」の区分で定める単位数
- (4)については、専門科目で定める単位数
- (5)については、教養科目と卒業研究で定める単位数

■カリキュラム・ポリシー

子ども学科の教育目標を達成するために、教育課程を「教養科目」「専門科目」「卒業研究」の3つの科目群から編成し、教育課程編成方針の実質化を図るため、学修方法・学修過程、学修成果の評価方法を明確化する。

- (1) 教養科目では、人間性と社会性を支える基礎的な教養と学習方法の修得を目的とし、生涯にわたる研鑽の基礎となる科目を配する。
- (2) 専門科目では、総合的実践力を養うために、「保育の本質・目的」「保育の対象の理解」「保育の内容と方法」「保育展開のための知識・技術」「保育実践」の各区分に科目を配する。
 - ① 「保育の本質・目的」では、保育・教育の本質を理解するための科目を配する。
 - ② 「保育の対象の理解」では、保育の対象を多面的に捉えるための科目を配する。
 - ③ 「保育の内容と方法」では、保育内容を理解し、相互に関連付けながら保育の方法を修得する科目を配する。
 - ④ 「保育展開のための知識・技術」では、子どもの心身の育ちを支えるために必要な専門知識・技術を養うための科目を配する。
 - ⑤ 「保育実践」では、保育を総合的に計画・実践するための科目を配する。
- (3) 卒業研究では、それまでの教育内容の総合化として、自ら問題を発見し、解決に向かう力を養うための科目を配する。

■アドミッション・ポリシー

- (1) 本学科の特色を理解し、明確な勉学目的を有し、自己目標を達成するために意欲的に行動できること。
- (2) 本学科で学ぶための基礎学力があり、思考力と表現力を有していること。
- (3) 保育者に相応しい人間性と良好な人間関係を保つためのコミュニケーション能力を身につけていること。
- (4) 広く社会への関心を持ち、問題意識や意見をもつことができること。

《現代福祉学科》

■ディプロマ・ポリシー

現代福祉学科では、東北文教大学短期大学部学位規定に基づき、以下の知識・技能・態度を身につけ、基準となる単位数を修得した者に卒業を認定し、短期大学士（現代福祉学）の学位を授与する。

- (1) 人間科学及び社会福祉に関する知識を理解したうえで、地域の諸問題に責任をもって関わるための思考力・判断力・表現力を身につけ、意見を交わすことができる。
- (2) 介護を必要とする人が、自分らしい生活を継続できるよう、基本的な生活支援技術を実践できる。

- (3) 人間の尊厳や人権を尊重する態度と倫理観を持ち、コミュニケーション力・協調性・積極性を身につけ、社会に貢献できる。

規定した知識・技能・態度の育成に資するため、基準となる単位数に、以下に示す単位数を含むものとする。

- (1)については、現代福祉基盤教育科目における「基礎科目」「医療と組織」「発展科目」区分で定める単位数
- (2)については、介護福祉専門教育科目における「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」区分で定める単位数
- (3)については、介護福祉専門教育科目における「人間と社会」区分で定める単位数

■カリキュラム・ポリシー

現代福祉学科の教育課程編成の方針を以下に示す。

- (1) 現代福祉学科の教育目標を達成するために、教育課程を現代福祉基盤教育科目（基礎科目、医療と組織、発展科目）、介護福祉専門教育科目（人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケア）、卒業研究、日本語で編成する。
- (2) 現代福祉基盤教育科目の「基礎科目」では、初年次教育として大学で学修するために必要な文章作成や表現力を育成するための科目、教養科目、スポーツに関する科目を配する。
- (3) 現代福祉基盤教育科目の「医療と組織」では、医療事務や情報ビジネスに関する科目を配する。
- (4) 現代福祉基盤教育科目の「発展科目」では、地域活動、福祉レクリエーション、障がい特性に応じた専門技術に関する科目を配する。
- (5) 介護福祉専門教育科目の「人間と社会」では、介護を必要とする人に対する全人的な理解や尊厳の保持、社会福祉制度に関する科目を配する。
- (6) 介護福祉専門教育科目の「介護」では、人間の幸せと社会のあり方を幅広く捉え、「尊厳の保持」「自立支援」を踏まえて、あらゆる場面に汎用できる専門的な知識・技術・態度を養う科目を配する。
- (7) 介護福祉専門教育科目の「こころとからだのしくみ」では、介護実践に必要な、人間の成長と発達ならびに障がいの医学的側面に関するこころとからだのしくみを理解する科目を配する。
- (8) 介護福祉専門教育科目の「医療的ケア」では、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実践するために必要な知識・技術・態度を修得する科目を配する。
- (9) 卒業研究では、それまでの教育内容の統合化として、課題解決に取り組む卒業研究を必修科目として配する。
- (10) 日本語では、留学生の学修支援を促進するため日本語を配する。

■アドミッション・ポリシー

- (1) 現代社会のかかえている諸問題に広く関心を持ち、自らの意見を述べられる学生。
- (2) 地域社会における諸問題に広く関心を持ち、介護福祉に強い学修意欲がある学生。
- (3) 周囲の人との良好な人間関係を保つためのコミュニケーション能力があり、他者に対する誠実な態度と礼儀がある学生。
- (4) 入学後の学修に必要な基礎学力があり、自己目標を達成するために主体的に学ぶことができる学生。

学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）

本学では三つのポリシーを踏まえた教育の質を保障するためにアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果を可視化しています。

詳細は、「東北文教大学短期大学部学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)」を参照してください。(p.96)

5 東北文教大学短期大学部学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)

本学における教育研究活動が、建学の精神と結びついた教育目的・目標やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーに基づき適切に行われているか、多面的、総合的に点検・評価し検証することで、必要な改善につなげ、教育研究の継続的な質保証に努めていきます。

点検・評価にあたっては、学修の到達度を、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（学科）、授業科目レベル（授業科目担当者）の各レベルで、以下の観点に基づき検証します。

機関レベル（大学全体）

学位授与状況、学修到達度シート等から、入学から卒業までの本学の教育プログラムによる学修成果の到達度を総合的に検証する。

教育課程レベル（学科）

成績評価、単位修得状況、GPA、資格取得状況等から、教育課程全体を通じた学修成果の到達度を検証する。

授業科目レベル（授業科目担当者）

各授業科目のシラバスに明記された成績評価基準に基づく厳格な成績評価、学生による授業改善アンケート等から、当該科目の学修の達成状況を検証する。

具体的な検証方法

時期 レベル	入学前・入学直後 [APを満たす学生が入学しているかの検証]	在 学 中 (単位認定・各セメスター) [CPに基づいて学修が進められているかの検証]	卒 業 時 (卒業後) [DPを満たす人材になったかの検証]
機関レベル (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者選抜結果 ・ 入学生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPA ・ 修得単位数 ・ 休退学率 ・ 学修到達度シート ・ 学修行動アンケート ・ 学習成果等アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位授与状況 ・ 就職率 ・ 卒業時アンケート ・ 学修到達度シート ・ 卒業生アンケート
教育課程レベル (学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者選抜結果 ・ 入学者選抜入試種別結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPA分布 ・ 成績分布 ・ 単位修得状況 ・ 学修到達度シート ・ 学修行動アンケート ・ 学習成果等アンケート ・ 外部テスト ・ 資格取得者 ・ 進級率 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位授与状況 ・ 資格取得者数 ・ 学修到達度シート ・ 卒業時アンケート ・ 就職率 ・ 卒業生アンケート
授業科目レベル (授業科目担当者)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況 ・ 成績評価（単位取得率） ・ 成績分布 ・ 授業改善アンケート 	